

◆先輩からのアドバイス◆

なぜ卒業研究に取り組むのか？

所属している学部や専攻する分野によって違いはありますが、多くの大学生が大学生活の終わりにかけて“卒業研究（卒業論文）”に取り組めます。大学の卒業条件と直結していることも多いこの卒業研究に対して、悩み、ときに苦しみながらも意欲的に取り組む先輩方の姿を見てきたという方も多いでしょう。特に文系の学生であれば、その研究を10000～20000字以上の論文としてまとめることが必要となる場合もあります。ほとんどの学生が、1～2年という短い期間のなかで、人生で初めての“研究”と慣れない文章の作成に取り組む、完成させていかなければなりません。また、このように取り組んできた研究も、大学卒業後に研究やその分野と関わりのない職種に就くと無意味なものになってしまうのではないかと思うと、一層の虚しさを感じます。卒業研究は一体何のために取り組むのでしょうか？

学生の皆さんが卒業研究でいちばん初めに悩むのは、おそらくテーマの選定だと思います。このテーマを研究する意味があるのか、自分の興味・関心が続くようなものか…とても重要なことですし、大いに悩むところでしょう。しかし、卒業研究でもうひとつ大切なことは、自分の研究と向き合った時間ではないかだと思います。卒業研究では、約1年から2年の間に、ひとつのテーマを丁寧に、徹底的に掘り下げ、その意義や結果を多くの人たちに伝え、そして受け取ってもらわなければなりません。大学を卒業後、卒業研究のテーマや研究自体とは離れてしまっても、自分ではない人へ“何か”を伝えることに必死に取り組んだこの時間が、人生の中で無駄になることはないでしょう。

卒業研究を通して、さまざまな人に“何か”を伝えるちからを培ってみませんか？

(人文社会科学研究科 院生)